

1. P. S. Doc. No. 3347

Exhibit No.

連合国最高司令官 總司令部 法律部 及
國際檢察部

極東國際軍事裁判所

元海軍軍令部、軍属民間ラゲオモミター中原文次郎、宣誓
供述書

一九四二年三月日本帝國潛水艦イ、ろ号、印度洋、行
動、間、特、嶋田繁太郎海軍大將、軍令部總長兼海軍
大臣在任中、一九四二年三月二十六日、汽船「シラス」
月二日汽船「シラス」に、撃沈、件、關、私中原文次郎、三
ニ宣誓言、上左、如、陳述、致、ス。

一、私、名前ハ中原文次郎デアリマス、私、一九二〇年、日本人ヲ
兩親トシテ「ハワイ」領土ニ於、イテ生レ、一九三八年日本ニ來
シタ、本籍ハ山口縣大島郡白木村トニテアリマス。

二、一九四二年十二月日本海軍軍令部ハ私ヲ民間ラゲオモミ
タイトシテ、日本海軍、外國放送聽取所デ働カスタメニ呼
ビ、安、セ、タ、一九四三年二月「シラス」
ラシ同年十月日本ニ歸リ、東京、海軍本部、聽取所ニ於
イテ一九四四年二月ニ勤メタ、同月日本潛水艦イ、
ろ号、有泉中佐東京、海軍省ニ出頭シ、イ、ろ号、為ニ
民間ラゲオモミターヲボメタ、私ハ軍令部次長、孫、印、符、令
ニ依リ、其、職ニ任、セ、ラ、タ、デアリマス。

三、私ハ呉ニテイ、ろ号ニ乗艦シ、一九四四年二月「ベナニ」ニ合、ケ、テ
日本ヲ出、發、シ、タ、デアリマス、「ベナニ」ニ一週間碇泊、後

印度洋ニ出テ「セイロン」島以南ノ哨戒ニ當リマシタカコシハ

一九四四年ノ三月ヨリ五月ニテ續イタリデアリマス。

一九四四年三月イノ八号ハ「ジュラック」トイフ和蘭船ヲ撃沈

シマシタ。魚雷カ船ニ命中シテヨリ約三十分ノ後潜水艦ハ水

面ニ出マシタ。有泉艦長ハ私ニ司令塔ニ出テ来テメカクシ

テ救命艇ニ向ッテ潜水艦ニ来ル様呼ビカケヨト命ジタリデア

リマス。私ハ命令ニ依リ救命艇ニ居ル人々ニ向ッテ一人ツツ潜水艦

ニ乗り移リテ前甲板ニ集ッテ坐ルヨウ。又若シ後ヲ振返ヘト

射殺サレヒヨラ告ゲタリデアリマス。彼等ハ潜水艦ニ乗移ル

彼等ノ救命帶時計其他衣服以外ノ持物ハ凡テ剥ギ取

ラレタリデアリマス。彼等ハ約百名デアリ。乗客ト船員ニアリ

マシタ。

5. ソノ船ノ船長無線電信技師機関科士官也ニ約四人ノ

男子ト一人ノ婦人ハ潜水艦ノ内部ニ連行サレマシタ。

6. 捕虜達ハ潜水艦ニ乗移ルヤ後手ニ縛ラレマシタ。殆んど全

部ノ捕虜達ハ前甲板ニ坐ラセラレタ後四人ノ潜水艦乗組

員カヤテ来テ一人ツツ捕虜ヲ後甲板ニ連ヒテ行キ。彼等ヲ殺

シタノデアリマス。私ハコノ事態ヲ聞クヤ否ヤ士官食堂ニ降リテ

行キマシタ。私ハ先任特校ノ命ニヨッテ再ビニ登リ彼等ニ

向ッテ若シ後ヲ振り向ケバ射殺サレルト告ゲタリデアリマス。

私ハ殺ス所ヲ目撃シタ譯デアリマセンガ乗組兵員ノ詭ニ

依ルト臭雷ヲ撃テ沈サレタ船ノ生存者ハ棍棒ニテ打タレ刀

ニテ斬ラレ射殺サレタノデアリマス。コレハ約一時間續キ

マシタ。先任特校ノ本田大尉ハ私ニ前甲板ニ留マル様

命じ且ッ捕虜ニ前面ヲ向イテルヤウ若シ後ヲ振向ケル
 射殺サセルト告ゲヨト私ニ命じ續テタリデアリス
 7. 潜水艦が潜水シタ時ハ私ハ士官食堂ニ歸ッテオリマシタ
 有泉艦長ハ私ニ命ジテ下ニ連行サシタ捕虜達、訊問
 ニ際ニテ通訳ヲサセタリデアリス 訊問ハ士官食堂で行
 シタ 彼ハ先ヅ婦人ヲ訊問シタ 彼女ハソレカラ前方
 兵員室ニ連行サシタ 一時間後 私ハ其ノ部屋ニ行キ
 シタ 彼女ハ何カ欲シイモノハナイカト尋ネルトタム水
 一杯欲シイト云フデ 私ハソレヲ持ッテ行ッテヤリマシタ 彼
 女ハ私ニ曰ツテ戦争、始マル前暫ク日本ニ居タ事ガアリ米
 国赤十字社ノ勤務者デアリ 「ホニベイ」ニ行ク途中デアッ
 タノゲト私ニ語ッタト思ヒマス 私ガ彼女ト話シテ井ニ際先任
 將校ト五人ノ水兵ガ這入ッテ来マシタ 彼女等ハ二挺ノ銃ヲ
 持ッテオリマシタ 先任將校ハ日本語デ私ニ彼女ハ射殺
 サシネンナラヌト申シマシタ 私ハ之ヲ彼女ニ話シマセデシタガ何が
 起ラウトニテルカハ彼女ハ解ッタト思ヒマス 水兵達ハ捕虜
 達ヲ一人ハ甲板ニ連シテ行キ射殺シマシタ 後ニナツテ或ル
 乗組兵員ガ彼女等ハ射殺サレタノゲト私ニ話シタデ 私ハ少
 トモソウ考ヘルノデアリス 彼女ガ今ヤ連シテ行カシントスニ際
 私ハ彼女ヲ正面ニ見ル事ハ出来マセデシタ 彼女ハ何が起
 ルカ解ッテ居ルト私ニ語リマシタ 先任將校ハ私ニ命ジテ彼
 女ガ目隠シヤ後手ニ縛ラシル事ヲ望ニテ居ルカドウカ尋ネサセ
 シタ 彼女ハ「イエト」ト答ヘ「ヨロイ」トイッタデアリス 彼女
 七ル前ニ「サヨナラ」ト申シマシタガ「サヨナラ」ハ乗組員全部ニ対シ

J.P.S. doc. No. 3347

P.4

ア云々デス、ソノ婦人が処刑サレテ前ニ男子ノ捕虜ニ
訊問ガ完了シタカドウカハ記憶ガアリマス。

8. 和蘭船ノ船長ハ後午ニ縛リテテラシテ艦内ニ連シ下サシマ
シタ。彼ハ私ニ彼ノ手ヲ縛ルハ、國際法違反デアリト云フ
ヲ有泉中佐ニ話サユウニ申シマシタ。私ガソノ旨ヲ有泉ニ
通譯シタ所、彼ハ馬鹿野郎、コレハ戦争ダト云ヒマシタ。
ゴウサツノ號、船長モ亦有泉ニソノ船長配下ノ船員ニ親
切デ實ニデアツテモラヒタイト願ヒマシタ。彼等ハ彼ノ訊問終
ヘタ後、彼ヲ艦ノ前部兵員室ニ連シテ行ツタ。私思ヒマス赤十字
勤務者ト私ガ話シマシタ時、私ハソコデ彼ヲ見マシタ。

9. 有泉ハ和蘭船ノ船長、訊問ヲ終ヘタ時、ソノ船ノ無線係士
官ハ潜水艦、通信將校ヨリ訊問ヲ受ケ、私ガソノ通譯ヲ
致シマシタ。ソノ機関科士官ハ潜水艦ノ上級將校ヨリ訊
問ヲ受ケマシタ。私ハ艦ノ前部兵員室ヲ去ツテカラ後、捕
虜ハ一人モ見モデシタ。

10. ゴウサツノ號、沈没シタ翌日潜水艦イノ、8号ノ士官會堂
デ海軍軍令部ガ沈没船ノ生存者ハ全部殺害セヨト命令ヲ
旨有泉中佐ヲ本田大尉、軍医官及ヒモ一人ノ士官ニ話シ
マシタ。私ハ聞キマシタ。本田ガコノ命令ヲ兵員達ニ傳ヘタ
ト私ハ思ヒマス。有泉ノ残忍ナコトヲ知ツテキマシタ。私
達ハ皆ソノ命令ニ従ヒマシタ。彼ノ乗組員ノ間ニ於テ、綽
名ハ「惡漢」デシタ。

ハ、コ船の船長ノ訊問中有泉中佐ハ私ニ日本ノ海軍本部ハ敵船上ノ者ハ凡テ殺害セヨトノ命令ヲ出シタト語リマシタ。彼ハ又私達ニ捕虜ヲ殺害シタコトヲ誰モ云フテハナラナイト告ゲマシタ。

12. 第一回ノ哨戒が終ルヤ否ヤ私達ハベナンノ基地ニ歸リマシタ。歸リマシタ時、私ハ有泉中佐ニ私ハ脊椎硬化症ヲ病シテ居リ、背當ヲ着用シテイルト思ハレテ居タカラモ一度哨戒ハ行カレナイト云ヒマシタ。若シ私が行カナイラ、私ハ軍法會議ニ附セラレルト彼ハ私ニ云ヒマシタ。私ハ民間人タカラ軍法會議ニ附セラレナイト云フコトヲ私ハ知ラザマシタ。

13. 艦ノ修理ニ約三週間ヲ過シテカラ、私ハオニ回目ノ哨戒ノタメベナンヲ立テマシタ。コオニ回目ノ哨戒ハ一九四四年ノ六月ノ初旬カラ八月ノ初旬マデ續キマシタ。コノ哨戒ハオニ回目ト同一海域で行ハレマシタ。七月中、潜水艦イノヲ辨ハ汽船ニコレットヲ沈メマシタ。コオニ回目ノ患没ニオイテモ、状況ハ三月以前ジサラフクヲ辨、患没場合ト全ク同一デシタ。潜水艦ハ臭雷ヲ投射スルヤ否ヤ、水ニ浮ビ揚リマシタ。有泉中佐ノ命令デ私ハムカブンデ生存者ニ潜水艦ニ乗ルヤヲ呼ビカケマシタ。又モ生存者ハ衣類ノ外ハ凡テノ所有物ヲ剥ギ取ラレ、縛バラレソレテ前甲板ニ座ルマシタ。番兵ヲ付ケテ前オニ津レテ行キマシタ。潜水艦ニ乗ル生存者ハ約八十名デシタ。ニコレットヲ辨、船長及ビ他ノ捕虜達ガ艦内ニ連レテ

JPS Doc. No. 3347

P. 6

行カレシテカス 乗込員カラ私ガ南キマラ所ニ、生存者、
残リ者、一人、連レ乗サ、銃ヲ塞ツテ、鉄鉄ヲ刺
スヤ 棍棒ヲ打ツマシ或ハ日本刀ヲ斬ツテ、殺害セシ
シヲ。
但「ニコット」、船長、無線係、機関士、國務省、役人等
多分下ニ連行サシマシ、使、殺ル、者連ガ訊問ヲ受
マシ。「ニコット」、船長ハ有象中庄ニ訊問サシ、無線係
ハ通信將校カラ又機関士ハ潜水艦、機関科將校
カラ夫レ訊問サシマシ。彼等ハ最初、消滅、野ニ報
向マシ、同ノ人々ヲ殺マシ。又モ私ガ通訳ヲ致
マシ、船長ト國務省、役人ト、多ク行虜、全部ハ
潜水艦ニテ延刑サシマシ。ソレヲ潜水艦ニ去テ行ク
ヲ、使、私ガ見、行虜ハ國務省、役人等ヲアサシ。
又國務省、役人等、頭、頭ヲ生マシ、イシ。
彼ハ私ニ刺マシ、其、マシト頼マシ、船長ガ貸シ
テハナラヌトモ、私ハ下ニ官ニ送リ、ソノ男ハ彼、刺マシ、奥
ヘト思ヒマス。私ハ國務省、役人ニ、使、彼ガマシト日本人
調子ヲ合セナラ、彼ハモシト具合ヨク行クマシト、話シマシ。
彼ハ私ニ感謝致シマシ。コレハ我々ガベシ、彼泊中ノ事
デシヲ、私ハ下艦ニ、使、談シマシ、マシ、私ハ艦カ、本々
イ、人々ヲ、彼ヲ日本ニ連テ、事ヲ、記憶、ハ居リマシ、後、
私ハ彼ヲ、獲、獲、見、殺マシ。

J. P. S. Dec. No. 3347

P. 7

- 15 私ハ処刑ヲ目撃シタリトアリマスガ潜水艦、他、乗組員達カラ下ヘ運ビテ行カシマシマス、或モ運ハ斬首サレ有泉中佐自ラソノ中、或ル斬首ヲ行ツタトイフ事ヲ聞キマス。私ハ機関室分隊士官ガ処刑、後自今、斂、血ヲ拭ヒ消毒水デテ手ヲ洗ツテイルヲ見エマス。
- 16 私ハ艦中デ、民間人デアリ、又ニセデアツタ爲メ、八号、乗組員、多ク、人運ヲ信用サレマスニテマス。又彼等ハ起ツタ事、凡テ私ニ話シテクレマスデマス。
- 17 一九四四年九月、私ハ、八号デ日本ニ歸リ海軍軍令部デ民間人ラジオモニアートニテ再ビ私、江事ヲ始メ、ソコデ一九四五年八月迄働キマス。私ガ海軍軍令部ニ復命ニテ向エテ、第三部長カラ海外ニ於テル私、経験ヲ語ルト云ハレマス。私ハ後デ有泉艦長ガ一九四五年八月、未自殺シタト聞キマス。私ハ有泉、海軍服役履歴書デ彼ガ一九四四年十月ニ大佐ニ進級シタ事ヲ讀ミマス。
- 18 口供書ニ於テ私ガ述べタ事件ニ関シハ、私ハ海軍軍令部、或ハ他、如何ナル所ニ於テモ日本、海軍、外務省、人カラ訊問ヲ受ケタ事ハアリマス。又此等、事件ニ関シハ、八号、乗組員中、誰カ日本、海軍、外務省、人カラ訊問ヲ受ケタト云フコトヲ聞カシマス。此等、事件ニ関シテ私ハ一九四五年六月十三日ニ連合国最高司令官總司令部海務部、英國海軍義勇隊 W. ソルター大尉ニ始メ訊問ヲ受ケ、更ニ後日連合国最高司令官總司令部海務部、トマス・C. アイッシャー代ニ訊問ヲ受

J.P.S. Dec No. 3347

ヤミヤ。

中原次郎

日本東京

私中原次郎、正式ニ宣誓、上前述、陳述ハ私ガ之ヲ
閱讀シタリ及ビ眞實カラシム、陳述ハ私、最善、知識
信念ニ照シテ眞實且正確ナル事ヲ申セタリ。

中原次郎

一九〇一年一月六日、本宣、面前ニテ署名シテ宣誓セリ。

W. ソルター

英國海軍義勇隊大尉